

FUKUOKA UNIVERSITY FACULTY GUIDEBOOK

スポーツ科学部

Faculty of Sports and Health Science

- スポーツ科学科
- 健康運動科学科



FUKUOKA UNIVERSITY

福岡大学
学部ガイド2027

入学センター

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL: 092-871-6631 (代)



スポーツ科学部
ウェブサイト



キャンパス
マップ



Theory & Practice

文武合一

[理論知と実践知の融合]

スポーツと健康運動について、
実践と科学を学ぶ。

はじめに

スポーツ科学部は、スポーツ・体育・レクリエーション・レジャー・健康・福祉などを対象とする広範囲の学問の深化を図り、21世紀のウェルネス社会実現に向けて貢献し、スポーツ知を拓く学部として機能することを目的とし、スポーツ・体育・健康運動の自然科学・人文社会科学の知識に裏づけられた理論的指導ができる人材を育成します。

※本冊子に掲載している人物の情報は、2025年度取材時のものです。

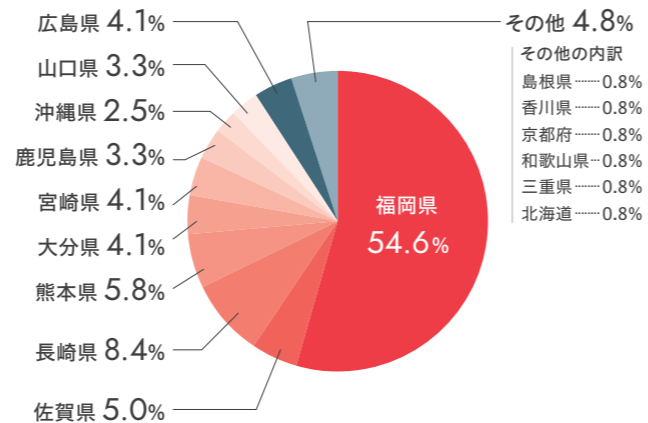
就職者の約2割、121人*が教員に。

※2023～2025年度の実績

福岡県内はもとより、西日本の各地で活躍しています。

2025年度の
教員免許状
取得者数実績 **114人**

▶ 教員の県別就職先



学部長メッセージ

スポーツ科学を学び、スポーツと健康運動の エキスパートとして社会に貢献する



スポーツ科学部長 檜垣 靖樹 HIGAKI Yasuki

スポーツ科学は、スポーツや身体活動・運動を基軸とし多角的な視点から研究する学問です。主な分野には、スポーツ生理学、スポーツ心理学、バイオメカニクスといった自然科学的な領域からスポーツ社会学、スポーツ哲学といった人文・社会学的な領域が含まれ、領域横断型の学びを体現できます。

令和8年度より新カリキュラムが開始します。スポーツ科学科および健康運動科学科では「S&C(ストレンクス&コンディショニング)トレーナーコース」を新設し、NSCA(全米S&C協会)認定のスペシャリストやパーソナルトレーナーの資格取得を支援します。また、幅広い分野でスポーツ科学・健康運動科学の知識を生かし、社会の多様なニーズに応える「キャリアデザインコース」を設け、柔

軟なキャリア形成を図ります。

現在、人生100年時代を見据え、一人の人間として全人的に成長し続ける“ちから”を身に付けることが求められています。スポーツには、その“ちから”を育むための多くの要素が含まれています。自らの限界に挑戦する、挑戦する人を支える、トレーニングの理論や健康づくりの理論を深く学び課題を解決する過程の中で、新たな知識、洗練されたスキル、積極的な態度を身に付けることができます。

スポーツ科学を理論的かつ実践的に学ぶことを通じて、新たな価値を創造して社会から求められる人に、そして貢献する人財になることを期待しています。



目次	学部長メッセージ	01
	学科紹介	02
	スポーツ科学科	02
	健康運動科学科	06
	教員・研究の紹介	10
	スポーツ研究施設・設備の紹介	12
	クラブ活動	14
	活躍する現役生	15
	「スポーツ科学部」に入学したら?	16
	スポーツ科学を極める!～学部から大学院へ～	17
	トップアスリート紹介	18
	トップアスリートリスト	19
	スポーツ科学部Q&A	20

▶ アドミッション・ポリシー Admission Policy

スポーツ科学部は人材養成の目的を達成するために、
①スポーツを日常的に実践している人
②スポーツや身体運動を対象に積極的に科学しようとする人
③競技スポーツにおけるパフォーマンスの向上を目指す人
④保健体育科教員、スポーツコーチ、インストラクター、S&C(ストレンクス&コンディショニング)トレーナー、健康運動指導士などスポーツや健康全般にかかわる職種を目指す人の入学を求めています。

▶ カリキュラム・ポリシー Curriculum Policy

スポーツ科学部のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシー(DP)に示した人材を育成することを目的として編成されています。
そのためのカリキュラムとして、1年次より共通教育科目とともに基礎的な専門教育科目を配置し、学年が進むにしたがって学生個々の興味と関心に基づいて専門的な知識と技能をより深く学ぶことができるようにしています。また、1年次から就職等の進路を視野に入れて意図的、計画的に専門教育を進めることができるように、一部選抜制を含む推奨コースを設定しています。さらに、実技科目や演習科目は、理論と実践を統合した教育を体系的に行うために、少人数のクラスによ

る双方向の授業形態を配置し、3・4年次ではスポーツ科学演習や卒業研究論文および卒業研究論文発表会を通して学習者自身が何が身についたか、実感できるようカリキュラムを組んでいます。
スポーツ科学科は、自らが専門とするスポーツ種目のコーチング理論の習得と技能の向上、スポーツ全般にわたる科学的指導能力の向上およびスポーツを通じたキャリア形成を、また健康運動科学科は、健康運動・S&C(ストレンクス&コンディショニング)・レクリエーションの科学的基礎知識に基づく実践・指導能力の習得および健康運動を通じたキャリア形成をそれぞれねらいとし、各学科の特性にあったカリキュラムを編成しています。

▶ ディプロマ・ポリシー Diploma Policy

スポーツ科学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。
①スポーツや健康運動全般の科学的指導能力を備えている。
②専門とするスポーツ・健康運動の高い技能と指導能力を備えている。
③スポーツ・健康運動の医・科学的知識に基づく卒業論文作成能力を備えている。
④スポーツ・健康運動を通じて社会や職業活動に必要なコミュニケーション能力、課題解決力、倫理的思考力を備えている。

三つのポリシー

- アドミッション・ポリシー (AP) (入学者受け入れの方針)
- カリキュラム・ポリシー (CP) (教育課程編成・実施の方針)
- ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与の方針)

▼ AP



▼ CP



▼ DP



スポーツ科学科

Department of Sports Science



スポーツ科学を学び、競技能力アップに応用。 ハイレベルなアスリートや指導者を目指す。

スポーツ科学科が注力しているのは実践(選手活動)を通じてスポーツ科学の専門知識を学び、それを競技能力の向上に応用すること。同時に、その過程から科学的なトレーニング法やテクニックの開発法、発達に応じた指導法といったコーチングから施設や用具の開発、マネジメントに至るまで、スポーツに関わる専門技能を広く修得することです。また、学生相互の切磋琢磨や充実した環境を生かして、プロや国際レベルでの活躍が目指せるのも本学科ならではの強みです。

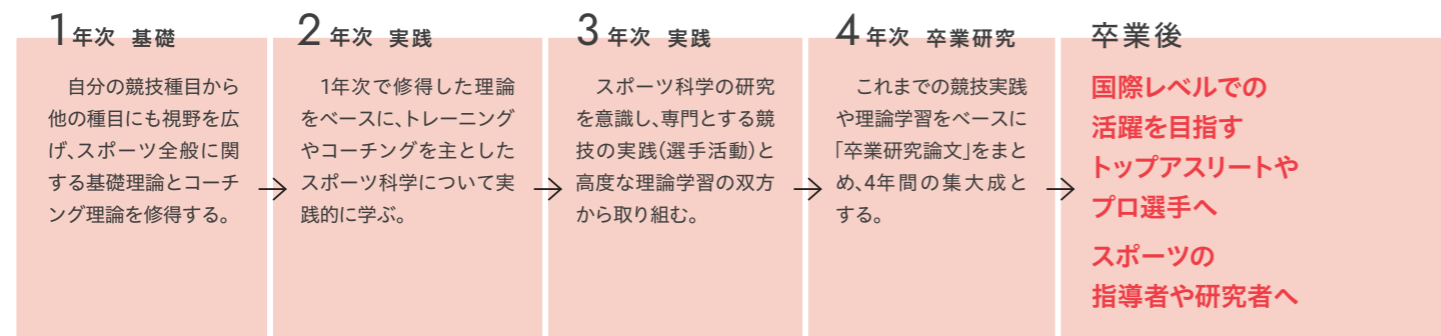
求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 競技スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- B 技能** 競技スポーツの経験を有し、競技力向上のために科学的に課題を分析できる人
- C 態度・志向性** スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- D その他の能力・資質** 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

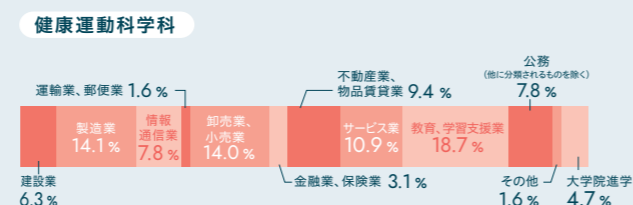
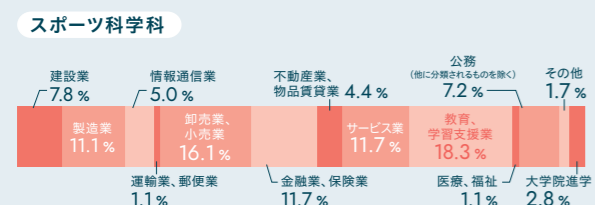
求める人材像
(求める能力)
の詳細は



スポーツ科学科での4年間



就職情報(その1) | スポーツ科学部の主な就職・進路先(業種別) [2025年度卒業生実績]



取得可能な主な資格

- ☑ 中学校・高等学校教諭一種免許
- ☑ 社会教育主事
- ☑ コーチ
- ☑ ジュニアスポーツ指導員
- ☑ スポーツプログラマー など

在学生の声



3年次生 小笠原 光咲さん
(福岡県 筑紫台高校出身)

スポーツを科学で解き、パフォーマンスを向上。
競技にも将来にも生かせる学びがある。

Q1 この学科の魅力は?

1年次から、自分の興味や目指す進路に合ったコースを学べる点です。私は陸上部で競技を続ける中で、競技者を支える仕事に興味を持ち、身体の仕組みや筋肉の動きなどを学ぶトレーナーコースを選びました。けがを想定した処置の実習やスポーツ心理学など、競技力向上にも将来の進路にもつながる実践的な学びが多く、日々刺激を受けています。

Q2 好きな授業は?

1・2年次に学んだ基礎を展開する「スポーツ科学演習」です。自分の走りを撮影し、フォームの確認や動作の数値化を行った上で、トップ選手のデータと比較すると、前傾の角度や歩幅に課題があると分かりました。その日の部活動で、課題を意識して練習したところ、タイムを改善することができました。スポーツを科学的に捉える面白さを実感した瞬間でした。

私の時間割(3年次前期)

	月	火	水	木	金
9:00			アスレチックリハビリテーション	スポーツバイオメカニクス及び運動学実験	インターミディエイト-イングリッシュⅢ
10:40					
13:00			心理学A		
14:40		芸術A	スポーツ科学演習		
16:20					

卒業生の声

スポーツ産業ビジネスの研究を深めて 価値向上のアドバイスができる専門家を目指す。

高校までは選手として競技に打ち込んできましたが、これまで没頭してきた“スポーツ”の背景には、これを支える巨大ビジネスや多数の役割があることを知りました。この発見に衝撃を受け、スポーツを「産業」として捉えるスポーツマネジメントに強く興味を持ちました。本学科には競技力の高い選手が集い、指導陣も元日本代表経験者や元プロ選手といった各専門分野で高い実績を残してきた人が在籍していて、スポーツを学ぶには素晴らしい環境が備わっています。

現在、研究者としてプロ野球のスタジアムマネジメントを中心に研究を進めています。バスケットボールなどの専門種目や応急救護の座学などの授業も担当し、学生の指導にも従事しています。在学中、卒業論文執筆に取り組む過程で学んだ論理的思考や思考を文章化する力が学生の指導や研究を行う上で生きていくと感じています。研究課題を探求し、文章化して発信できることが、研究者という仕事の面白さの一つです。学生と共に成長し続ける研究者でありたいと思います。



中野渡 興平さん (2023年卒業)

福岡大学 スポーツ科学部 助教

スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期
(2024年修了)

授業科目

2年次末に行うコース希望調査に基づいて、3年次以降は必ずいずれかのコースを選択することになります。ただし、各コースで人数制限を行うことがあります。選抜方法は、1・2年次にそのコースの推奨科目を履修していることとその成績ならびに志望理由書で行います。

●コース履修限定科目 * 選択必修科目

		1年次	2年次	3年次	4年次		
専門教育科目	必修科目	○フレッシュマンセミナー ○スポーツ心理学 ○解剖生理学I ○スポーツ栄養学	○スポーツデータサイエンス演習 ○コーチング学総論I ○コーチング学総論II	○ステップアップセミナー ○スポーツ生理学 ○スポーツ内科学 ○スポーツ経営学	○スポーツ科学演習	○卒業研究論文	
	選択必修科目	○スポーツ社会学 ○スポーツ哲学 ○スポーツ史	○陸上競技演習 ○器械運動演習 ○水泳演習 ○ダンス演習	○球技演習A - バスケットボール - ハンドボール ○球技演習B - サッカー - ラグビー ○球技演習C - バレーボール - テニス	○球技演習D - バドミントン - 卓球 - ソフトボール ○武道演習 - 柔道 - 剣道		
	アスリート・コーチコース 推奨科目 トップアスリートやトップコーチを目指すために必要なスポーツ科学の基礎知識とコーチング理論を学び、パフォーマンス向上のための実践的指導スキルを習得する。多様な競技種目における競技力の向上と普及、さらには優れたアスリート指導者の育成に貢献できる、高い資質を備えた指導者を養成する。	○スポーツトレーニング概論	○身体コンディショニング論 ○ストレングス&コンディショニング演習	●アスリート・パフォーマンス演習I ●アスリート・コーチング論 ○コーチング法演習	●アスリート・パフォーマンス演習II ●コーチング法実習 ○メンタルマネジメント		
	S&Cトレーナーコース 推奨科目 筋機能が関わる全ての体力要素であるストレングスと、その準備と調整技術であるコンディショニングを担うストレングス&コンディショニングトレーナー(S&Cトレーナー)として必要な専門スキルを身に付ける。競技スポーツ場面でのフィジカルサポートを目的としたストレングスとコンディショニングに関わる基礎知識を習得し、学内外の演習・実習(インターンシップ)を通じて優れた認定S&Cトレーナーを養成する。		○ストレングス&コンディショニング演習 ○テーピング&スポーツ・ケア演習 ○スポーツ・体力測定評価	●エクササイズテクニック実習 ●エクササイズテクニック演習 ●応急処置実習	●トレーニングプログラムデザイン演習 ●ストレングス&コンディショニングインターンシップ実習I ●ストレングス&コンディショニングインターンシップ実習II		
	保健体育科教員コース 推奨科目 学校教育における保健体育指導の現場で必要とされるスポーツ科学に基づく専門的知識と指導技術を習得し、特に身体活動や運動、健康教育を通じて生徒たちの心身の健康や豊かな生活を支えることができる教員を養成する。		○保健体育科教職基礎 ○保健体育科教育法I ○保健体育科教育法II ○体づくり運動演習 ○陸上競技演習* ○器械運動演習* ○水泳演習*	○ダンス演習*	●保健体育科教職演習I ●保健体育科実技演習 ○発達支援教育論 ○教職事前実習 ○保健体育科教育法III ○保健体育科教育法IV ○スポーツ運動学	○公衆衛生学(含衛生学) ○学校保健 ○球技演習A* ○球技演習B* ○球技演習C* ○球技演習D* ○武道演習*	●保健体育科教職演習II
	スポーツキャリアデザインコース 推奨科目 スポーツビジネス、マネジメント、アナリティクス、スポーツカルチャーなどを学び、幅広い分野でスポーツ科学の知識を生かせるキャリアパスを形成する。特に、スポーツビジネス分野においては、学生の興味を学びの中心に据え、キャリア設計を支援する。	○健康スポーツ総論I	○レジャー・レクリエーション総論 ○野外教育概論	●スポーツキャリアデザイン実習I ●スポーツキャリアデザイン演習 ●スポーツゲーム・パフォーマンス分析演習 ○スポーツマーケティング論	○スポーツ産業論 ○スポーツリサーチ実習 ○アダプテッドスポーツ演習 ○スポーツメディア論 ○スポーツ行政論	●スポーツキャリアデザイン実習II	
コース共通科目		○体力学 ○スポーツ統計学 ○アクアスポーツ	○キャンプ ○スキー	○スポーツバイオメカニクス実験 ○スポーツ生理学・生化学実験 ○スポーツ心理学実験	○コーチライセンス科目A ○コーチライセンス科目B ○スケート ○ゴルフ	○スポーツ種目各論	
関連教育科目		他学部の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める授業科目					
共通教育科目		人文科学 / 社会科学 / 自然科学 / 総合系列科目 / 学修基盤科目 / 外国語科目 / 保健体育科目 / 単位互換科目					

専門教育科目

選択科目

健康運動科学科

Department of Health and Exercise Science



学科
公式ウェブサイト



運動と健康に関する分野を科学的・実践的に学び、 第一線で活躍する研究者や指導者への道を開く。

健康運動科学科では学生自身がスポーツとレクリエーションを実践しながら、心身の健康維持や増進、回復の理論と技術を学びます。スポーツ科学科と比較した場合、「運動による心身の健康づくり」を重視しているところが特長です。生活に密着した運動と健康づくりを科学的に学習すると同時に、現場での実習や企業・地域公共施設と連携した実務教育を展開。スポーツ医科学や生涯スポーツの最前線で活躍するハイレベルな研究者や指導者を育成します。

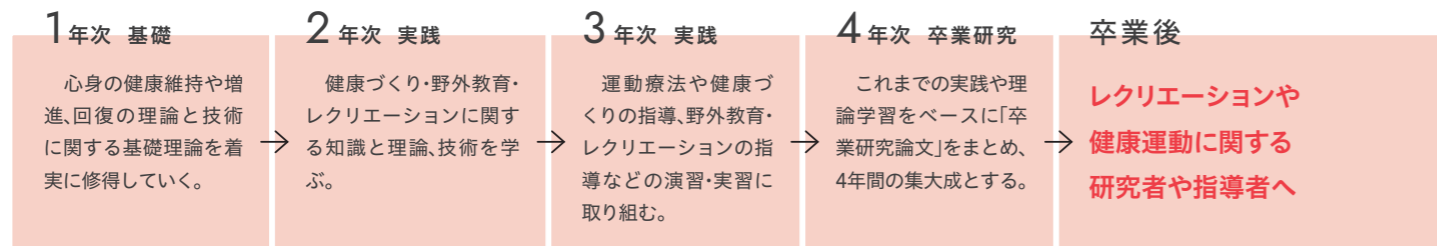
求める人材像(求める能力)

- A 知識・理解** 生涯スポーツを科学的に捉えるための基礎学力を有している人
- B 技能** 生涯スポーツの経験を有し、健康の回復や保持増進について科学的に分析できる人
- C 態度・志向性** スポーツの場面以外でも、スポーツの精神を体現化し、スポーツの素晴らしさを伝えたいと考える人
- D その他の能力・資質** 学校生活全般でリーダーシップ・コミュニケーション能力を発揮した人や英語資格の取得等に努めた人

求める人材像
(求める能力)
の詳細は



健康運動科学科での4年間



就職情報(その2) | スポーツ科学部の主な就職・進路先(企業名別) [2023年度~2025年度]

- 建設業**
 - (株)クラフティア
 - 大成建設(株)
- 製造業**
 - SMC(株)
 - ミネベアミツミ(株)
 - TOPPAN(株)
 - 旭化成(株)
 - トヨタ自動車九州(株)
 - 今治造船(株)
- 電気・ガス・熱供給・水道業**
 - 九州電力(株)
- 情報通信業**
 - 富士通(株)
- 卸売業、小売業**
 - ジョソソ・エンド・ジョソソ(株)
 - (株)アステム
- 金融業、保険業**
 - (株)西日本シティ銀行
 - (株)福岡銀行
 - 大和証券(株)
 - 日本生命保険(相)
 - 九州労働金庫
- 学術研究、専門・技術サービス業**
 - (株)九州博報堂
- 生活関連サービス業、娯楽業**
 - (株)Plan・Do・See
- 教育、学習支援業**
 - 福岡県教員(中学校)
 - 福岡県教員(高校)
 - 佐賀県教員(高校)
 - 長崎県教員(中学校)
- サービス業(他に分類されないもの)**
 - (株)JALナビア
- 公務(他に分類されるものを除く)**
 - 国税専門官
 - 刑務官
- その他**
 - 宮崎県教員(中学校)
 - 福岡市教員(小学校)
 - 福岡市教員(中学校・高校)
 - 北九州市教員(中学校)
 - 鹿児島県庁
 - 東京都庁
 - 福岡市役所
 - 福岡県警察本部
 - 福岡市消防局

取得可能な主な資格

- ☑ 中学校・高等学校教諭一種免許
- ☑ 社会教育主事
- ☑ 健康運動指導士
- ☑ 健康運動実践指導者
- ☑ 野外教育・レクリエーション指導者
- ☑ スポーツプログラマー など

在学生の声



3年次生 西原 瑚雪さん
(福岡県 古賀成徳高校出身)

科学と社会から学ぶスポーツの本質。
効果や根拠から運動を考察する力が養われた。

Q1 この学科の魅力は？

スポーツ心理学や栄養学、生理学などの幅広い視点からスポーツを学べます。身体の仕組みやトレーニングの根拠を理解し、運動と健康を科学的に考えるようになりました。さらに、大規模な大会やイベント運営が生む経済効果など、普段は意識しないビジネスの側面にも触れました。スポーツがどのように社会へ影響しているかを知り、新たな視点が得られました。

Q2 好きな授業は？

「レクリエーション演習」です。楽しみながら運動効果を上げるゲームをグループで企画・実践し、福祉や保育の現場での関わり方を学びます。私たちは、ジェスチャーを使ったしたりとりなどを取り入れ、参加者が楽しめるよう工夫しました。仲間と実際に体を動かして検証する中で、注意点などの課題が明確になり、一人では思い浮かばないアイデアにも気付きました。

私の時間割(3年次前期)

	月	火	水	木	金
9:00			アスレックリハビリテーション	野外教育概論	インターメディアイト-イングリッシュⅢ
10:40			アダプテッドスポーツ演習	解剖生理学Ⅰ	
13:00			レクリエーション演習Ⅰ		
14:40			スポーツ科学演習	スポーツ産業論	
16:20					

卒業生の声

学びを深める中で芽生えた健康運動指導士の夢。
予防医療や健康増進分野で活躍する道が開けた。

保健体育の教員を目指して入学しましたが、スポーツを医学的かつ科学的に学ぶ講義や企業・地域公共施設と連携した実務実習などを通じて、身体の仕組みや機能などを理解する中で、予防医療や健康増進分野など「健康づくりとしての運動」に興味を持ちました。これがきっかけとなり3年次に思い切って、健康運動指導士・健康運動実践指導者の資格取得へ目標をシフトしました。この決断は大きな挑戦でしたが、本学科は健康運動指導士養成校として認定されており、資格に必要な科目のほとんどが必修科目だったため、無理なく取得することができました。

現在は、それらの資格取得者の養成とサポート、健康・体力づくりに関する知識の普及活動などを行っています。卒業論文の作成時に学んだ、「目的や背景が大切」という考え方は仕事にも生きています。企画立案の際、目的を見据えながら試行錯誤を重ね、完成したときの達成感は大きく、やりがいを感じます。自身の運動パフォーマンス向上や教員免許取得だけでなく、幅広い分野を目指せることも、本学科の魅力だと思います。



釘本 郁美さん(2016年卒業)

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団
スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻 博士課程前期
(2018年修了)

授業科目

2年次末に行うコース希望調査に基づいて、3年次以降は必ずいずれかのコースを選択することになります。ただし、各コースで人数制限を行うことがあります。選抜方法は、1・2年次にそのコースの推奨科目を履修していることとその成績ならびに志望理由書で行います。

●コース履修限定科目 * 選択必修科目

		1年次	2年次	3年次	4年次		
専門教育科目 選択科目	必修科目	○フレッシュマンセミナー ○スポーツ心理学 ○解剖生理学I ○スポーツ栄養学	○スポーツデータサイエンス演習 ○健康スポーツ総論I ○健康スポーツ総論II	○ステップアップセミナー ○スポーツ生理学 ○スポーツ内科学 ○レジャー・レクリエーション総論	○スポーツ科学演習 ○健康スポーツ演習	○卒業研究論文	
	選択必修科目	○スポーツ社会学 ○スポーツ哲学 ○スポーツ史	○スポーツ整形外科学 ○スポーツバイオメカニクス ○体力学	○スポーツ産業論 ○公衆衛生学(含衛生学) ○発達支援教育論			
	健康運動指導者コース 推奨科目 健康づくり運動に必要となるスポーツ医・科学の基礎的知識や、健康づくり運動の実践的指導法のスキルを習得し、健康寿命の延伸に貢献できる質の高い優れた健康運動指導者を養成することを目的とする。	○解剖生理学II	○健康スポーツ心理学 ○スポーツバイオメカニクス* ○水泳演習 ○スポーツ整形外科学* ○体づくり運動演習 ○身体コンディショニング論	○体力学* ○ストレングス&コンディショニング演習 ○健康・体力測定評価 ○運動栄養学	●健康運動指導演習I ●フィットネス実習 ●応急処置実習 ○運動療法・処方(含むリハビリテーション) ○エアロビックエクササイズ ○公衆衛生学(含衛生学)*	●健康運動指導演習II ●運動療法実習	
	S&Cトレーナーコース 推奨科目 筋機能が関わる全ての体力要素であるストレングスと、その準備と調整技術であるコンディショニングを担うストレングス&コンディショニングトレーナー(S&Cトレーナー)として必要な専門スキルを身に付ける。健康維持増進を目的とした全年齢層に活用されるストレングスとコンディショニングに関わる基礎知識を習得し、学内外の演習・実習(インターンシップ)を通じて優れた認定S&Cトレーナーを養成する。		○ストレングス&コンディショニング演習 ○テーピング&スポーツ・ケア演習 ○健康・体力測定評価	○ストレングス&コンディショニング演習 ○テーピング&スポーツ・ケア演習 ○健康・体力測定評価	●エクササイズテクニック実習 ●エクササイズテクニック演習 ●応急処置実習	●トレーニングプログラムデザイン演習 ●ストレングス&コンディショニングインターンシップ実習I ●ストレングス&コンディショニングインターンシップ実習II	
	保健体育科教員コース 推奨科目 学校教育における保健体育指導の現場で必要とされる健康運動科学に基づく専門的知識と指導技術を習得し、特に身体活動や運動・健康教育を通じて生徒たちの心身の健康や豊かな生活を支えることができる教員を養成する。		○保健体育科教職基礎 ○保健体育科教育法I ○保健体育科教育法II ○体づくり運動演習 ○スポーツバイオメカニクス*	○陸上競技演習 ○器械運動演習 ○水泳演習 ○ダンス演習	●保健体育科教職演習I ●保健体育科実技演習 ○発達支援教育論* ○教職事前実習 ○保健体育科教育法III ○保健体育科教育法IV ○公衆衛生学(含衛生学)*	○スポーツ運動学 ○学校保健 ○球技演習A ○球技演習B ○球技演習C ○球技演習D ○武道演習	●保健体育科教職演習II
	健康キャリアデザインコース 推奨科目 健康関連ビジネス、レクリエーション、健康マネジメント、健康政策などを学び、幅広い分野で健康運動科学の知識を生かせるキャリアパスを形成する。特に、健康関連ビジネス分野においては、学生の興味を学びの中心に据え、キャリア設計を支援する。		○健康スポーツ経済学 ○健康スポーツ心理学 ○野外教育概論	○健康スポーツ経済学 ○健康スポーツ心理学 ○野外教育概論	●健康キャリアデザイン実習I ●健康キャリアデザイン演習 ●スポーツゲーム・パフォーマンス分析演習 ○野外教育・レクリエーション支援論 ○レクリエーション演習I ○レクリエーション演習II	○スポーツリサーチ実習 ○スポーツマーケティング論 ○キャンプ指導法実習 ○アダプテッドスポーツ演習 ○スポーツ行政論 ○社会福祉論	●健康キャリアデザイン実習II
	コース共通科目		○スポーツ生化学 ○スポーツ統計学 ○アクアスポーツ	○キャンプ ○スキー	○スポーツバイオメカニクス実験 ○スポーツ生理学・生化学実験 ○スポーツ心理学実験	○スケート ○ゴルフ	○スポーツ種目各論
関連教育科目		他学部の授業科目のうちスポーツ科学部教授会が適当と認める授業科目					
共通教育科目		人文科学 / 社会科学 / 自然科学 / 総合系列科目 / 学修基盤科目 / 外国語科目 / 保健体育科目 / 単位互換科目					

教員・研究の紹介

スポーツ科学部に所属している教員をご紹介します。
※2026年4月1日現在

教員からのメッセージや詳細はこちら



乾真寛 教授

専門分野

「サッカー」「コーチング学」
「指導法」「ゲーム分析」

主にサッカーコーチングの領域で、世界及び日本のトップレベルのコーチング法や育成システムの研究、開発、年令に応じた一貫指導プログラムの研究と指導者育成。



片峯隆 教授

専門分野

「陸上競技」
「コーチング学」
「スポーツバイオメカニクス」

陸上競技に関するコーチング学及び科学的分析による研究・教育。



田口晴康 教授

専門分野

「体操競技」「器械運動」
「スポーツ運動学」

学校体育における器械運動の指導法および体操競技の技の分析について、スポーツ運動学的視点から教育・研究をすすめている。



上原吉就 教授

専門分野

「循環器内科学」
「スポーツ医学」「予防医学」

生活習慣病、動脈硬化関連疾患の先進治療・予防に関して研究している。心機能低下者への運動の有益性やアスリートへのパフォーマンス向上を探索している。また、善玉コレステロールであるHDLの骨格筋への作用や人工HDLの開発を行っている。



川中健太郎 教授

専門分野

「スポーツ栄養学」「スポーツ生化学」
「分子運動栄養学」

運動することで体力向上(スポーツ競技成績を含む)ならびに健康増進効果が引き起こされる。さらに、運動効果は食事・栄養によって影響される。これらの現象と仕組みについて、生理学・生化学・分子生物学の手法を用いて研究することで、効果的な運動・食事処方を考案することを目標とする。現在は、糖尿病や認知症との関連が深い骨格筋や脳の代謝機能をターゲットにしている。



田中守 教授

専門分野

「体力学」「トレーニング学」
「スポーツ生理学」
「ハンドボール」

競技スポーツの体力学・運動生理学研究を行っている。ハンドボールの技術・戦術研究も行っている。共同研究として健康づくりのための運動処方研究にも関わっている。



梅田保人 教授

専門分野

「保健体育科教育学」

学校教育活動の中で、保健体育科が果たす役割について研究を行い、実践的な能力を有した保健体育科教員の養成を行っている。



小牟礼育夫 教授

専門分野

「バスケットボール」
「コーチング学」

(1)対象、成績目標、様相に応じた指導計画、指導内容、具体的指導法。
(2)現場での効果的な指導につながるゲーム分析。
(3)スキルアップの為の映像活用。



田場昭一郎 教授

専門分野

「競泳」
「コーチング学」

(1)競泳に関するコーチング学。
(2)競技力向上のための実践的研究と教育。



柿本真弓 教授

専門分野

「体づくり運動」
「新体操競技」

(1)体づくり運動、新体操に関する研究。
(2)高齢者における体操の効果に関する研究。



重森裕 教授

専門分野

「スポーツ医学」
「スポーツ脳神経外傷」

各種スポーツによって生じる脳神経外傷の予防に関する研究を行っている。また、脳卒中や外傷により生じた後遺症に対するより良いリハビリテーション、スポーツについて研究している。



築山泰典 教授

専門分野

「野外教育」
「レクリエーション」

ウェルネス向上を目的とした野外教育・レクリエーションの実践・研究。



柿山哲治 教授

専門分野

「保健体育科教育学」

(1)教育活動では、中学校および高等学校における実践能力の高い保健体育教員養成を行っています。
(2)研究活動では、バスケットボール移入におけるアメリカ人女性宣教師の貢献と役割について調査を行っています。



下園博信 教授

専門分野

「スポーツ心理学」
「スポーツ行動科学」

(1)スポーツ心理学分野での認知・知覚についての研究。
(2)ラグビーを主としたコーチング方法、ゲーム分析の研究。
(3)スポーツ心理学的な観点でのコーチング研究。



布目寛幸 教授

専門分野

「スポーツバイオメカニクス」

優れたスポーツ動作の背景にあるダイナミクス(動力学)の探求。



野口安忠 教授

専門分野

「陸上競技」
「コーチング学」

陸上競技に関するコーチング学を中心に、実践研究をする。特に、投てきにおける指導法の研究・教育。



吉村一郎 教授

専門分野

「スポーツ整形外科」
「足(足関節)の外科」

スポーツ整形外科とはスポーツによって生じるスポーツ傷害(外傷・障害)の予防と早期復帰を目指すものである。特に足部・足関節におけるスポーツ傷害の治療および予防について研究を行っている。



神田智浩 講師

専門分野

「剣道」
「コーチング学」

剣道の競技力向上および普及発展を目的とした研究、また、剣道を主としたコーチング法の研究を行っている。



檜垣靖樹 教授

専門分野

「運動生理学」
「健康科学」「予防医学」

(1)生活習慣病予防と身体活動・運動に関する生理・生化学研究及び分子疫学研究。
(2)運動による骨格筋の糖取り込み亢進機序の解明。
(3)身体活動(運動トレーニング)の効果左右する遺伝素因の探索。



米沢利広 教授

専門分野

「バレーボール」
「コーチング学」

スポーツコーチングの効果的な指導方法に関する研究。特に、バレーボールのコーチングにおいては、科学的アプローチ方法と実践的教育・研究を行っている。



田方慎哉 講師

専門分野

「データサイエンス」
「ボールゲームのゲーム分析」
「バスケットボール」

(1)バスケットボールを中心としたボールゲームにおける分析
(2)戦術やプレー選択がパフォーマンスおよび勝敗に及ぼす影響の解明
(3)現場への応用を視野に入れた、データに基づくコーチの意思決定支援



藤井雅人 教授

専門分野

「スポーツ社会学」
「スポーツ教育学」

特にドイツの青少年スポーツに関する研究知見を基に、現代社会の変化がスポーツにどのような影響を及ぼしているのか、そして具体的なスポーツシステムの構築・展開はどのようになされるべきであるかを考究している。



今村律子 准教授

専門分野

「保健体育科教育学」

実践的能力を有した保健体育教員の養成。また、体育教員の運動指導時における視線解析や、脳の視覚情報処理から見た運動制御の解明を試みている。



中野大希 講師

専門分野

「体育哲学」
「スポーツ哲学」

(1)運動実践における痛みの経験の哲学的考察
(2)体育授業における「安全」および「危険」概念の再構築
(3)スポーツ実践を可能にする身体構造についての現象学的解明



坂本道人 准教授

専門分野

「柔道」
「コーチング学」

(1)柔道に関するコーチング学。
(2)競技力向上のための実践的研究と教育を主な研究テーマとしている。



松岡綾葉 講師

専門分野

「舞踊学」
「身体表現論」「身体教育学」

現代における新たなダンス表現、特にダンス映像の中の身体表現について研究を行っている。また、学校教育における身体表現の指導法について、ダンス・演劇の実演家の手法を用いた方法論を探究している。



道下竜馬 教授

専門分野

「運動生理学」
「運動療法・処方」「予防医学」

健康づくりや疾病予防のための体力、運動、身体活動に関する生理学的、疫学的研究、特に運動トレーニングによる動脈硬化や慢性腎臓病の改善効果ならびに機序解明に関する研究、疾病予防を目的とした運動・身体活動のコホート研究を行っている。



森口哲史 教授

専門分野

「公衆衛生学」
「スポーツ鍼灸」
「ハンドボール」

(1)環境変化の生体影響・物理刺激の生体影響に関する研究。
(2)ハンドボール選手の体力特性に関する研究。
(3)スポーツ選手の傷害に関する研究。



霜島広樹 准教授

専門分野

「スポーツマネジメント」
「スポーツマーケティング」「テニス」

(1)スポーツ消費者(実施者・観戦者)における行動メカニズムの解明。
(2)民間スポーツクラブやプロスポーツクラブにおけるマネジメント方策の探求。
(3)スポーツイベントの開催が及ぼす効果・インパクトに関する研究。



吉田一也 講師

専門分野

「スポーツトレーナー」
「スポーツ医学」
「アスレティックトレーニング」

スポーツにおける外傷・障害の予防や、パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングについての研究を行っています。



信岡沙希重 准教授

専門分野

「陸上競技」
「コーチング学」

陸上競技、特に短距離に関するコーチング学を中心に競技力向上のための実践的研究を行っている。また児童を対象とした疾走能力の研究も進めており、トレーニングプログラムの考案に取り組んでいる。



渡邊正和 講師

専門分野

「スポーツバイオメカニクス」
「野球」
「コーチング学」

野球に関するバイオメカニクスの分析における研究。競技パフォーマンスの向上に関する指導及び研究。

スポーツ研究施設・設備の紹介

総合体育館 (2017年2月竣工)

総合体育館は、4階建ての多機能なスポーツ施設です。武道練習場(柔道・剣道・合気道)や球技練習場(卓球・バスケットボール・バレーボール・バドミントン)は、国際規格に準じた広さや配色を採用しています。



バスケットボール練習場



バレーボール練習場



柔道場



メディカル フィットネス センター

(福岡大学病院内)



陸上競技場

国内の大学ではトップクラスの競技場。トラックは全天候型で1周400m×8レーン。砲丸投げ、やり投げ、ハンマー投げ、円盤投げ、走り高跳び、三段跳び、棒高跳びの施設、写真判定室や夜間照明、1,036席の屋根つき観客席などを備えています。



野球場

2014年に両翼100m、中堅122m、内外野人工芝の新しい野球場が完成しました。ダッグアウトにはロッカールーム、シャワールーム、シングルルームを備えています。



サッカー場

FIFA(国際サッカー連盟)に認定されたサッカー場です。新技術で都市型水害の軽減、ヒートアイランド現象制御効果も期待されます。



第二記念会堂 [外観]



鉄筋の4階建てで、3,600㎡のメインフロアに約1万人を収容することが可能です。

第二記念会堂 [室内]



実験風景



ラグビー場

九州の大学では初の人工芝ラグビー場。芝生総面積12,850㎡、観客席設置。九州ラグビー協会主催公式戦にも活用します。



プール (2021年2月竣工)

室内50m(長水路)の新築されたプールです。隣接するサッカー場の観客席やテラスも備えています。



クラブ活動

その他の 福岡大学 クラブ活動 はこちら >



学生の自主的活動によって、豊かな人間性を育成する部活動は、大学における教育の一環として重要な意味を持っています。福岡大学の体育部会は、45部1同好会を擁し、各大会などで優秀な成績を収めています。その一部を紹介いたします。



陸上競技部



体操競技部



水泳部



新体操競技部



柔道部



剣道部



なぎなた部



バスケットボール部



バレーボール部



ハンドボール部



サッカー部



ラグビー部



バドミントン部



卓球部



庭球部



ソフトテニス部



ソフトボール部



野球部

活躍する現役生

陸上競技



これまでの成績

- 2025日本学生陸上競技個人選手権大会 100m優勝
- 第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 100m優勝
- 2024日本学生陸上個人選手権大会 100m 優勝 (U20日本新・大会新) 200m 優勝 (大会新)
- 2024ナッソー世界リレー出場

山形 愛羽 さん | 熊本県 熊本中央高校出身

私が競技を始めたのは小学5年生からで、きっかけは陸上をしている母の姿がとても楽しそうだったからです。最初は大きな大会に出場できる選手ではありませんでしたが、高校になってから全国大会やシニアの大会に出場し、優勝や入賞など結果を残せるようになりました。福岡大学に入学した理由は、女子200m元日本記録保持者である信岡沙希重先生の指導を受けたいと思ったからです。また、日本でトップの成績を残されている先輩方も多く在籍しているチームで練習することが、競技力の向上に繋がると思いました。さらに400mの陸上競技場やスポーツ施設が整っている環境で競技活動が行えるのも大きな魅力でした。

入学して感じたことは、スポーツ科学部の講義での知識はもちろん、日常でも多くの先生方のサポートが私の支えになっているということです。1年次に大きな怪我をしたものの早く競技に復帰できたのは、この整った素晴らしい環境のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の目標は100mと200mでの日本記録を樹立すること、世界で活躍できる選手になることです。怪我をして悔しい気持ちになったことも良い経験として、目標に向かって頑張っていきたいと思っています。

ハンドボール



これまでの成績

- 第10回女子ユースハンドボール 世界選手権 8位

大山 紗理奈 さん | 福岡県 明光学園高校出身

私がハンドボールを始めた理由は中学時代の先生からの誘いがきっかけです。最初はハンドボールという競技も知りませんでした。中学校では週に4日しか練習をせず、高校生になり本格的にハンドボールをする中で、全国レベルの大会に出場する機会が多くなり、勝ちの喜びや負けの悔しさを知りました。この悔しさを糧に、地元で活躍したいという思いから福岡大学に入学しました。本学のハンドボール部は、去年リーグHでプレーする選手を男女含め9人輩出しています。「徹底」をスローガンに厳しく楽しいメリハリを大切に、堅い守りから速攻を武器にして今年は全日本インカベスト4を目標に日々の練習に取り組んでいます。体育館だけでなくトレーニングルームも充実しており、質の高いトレーニングで練習できるのも魅力の一つです。私はこういった素晴らしい環境でトレーニングをすることで個人では年代別の日本代表にも選出され、世界でも通用したプレーに自信を持つことができました。ここで満足せず日々の練習に取り組みさらにパワーアップし、日頃から応援して下さる方々のためにも結果で恩返しできるように努力し続けます。応援よろしくをお願いします。

剣道



これまでの成績

- 第43回全日本女子学生剣道優勝大会 優勝

香野 伶奈 さん | 福岡県 中村学園女子高校出身

私は5歳の頃から姉の影響で剣道を始めました。高校では、日本一という目標を達成し、個人でも3位という結果を残すことができました。競技への向き合い方、人間性などさまざまなことを学び、充実した3年間でした。高校時代は挑戦者、かつ追われる立場だったことから自分の最大限のパフォーマンスを発揮することができず、悔しい経験が多かったです。

福岡大学に入学した理由は、大学では自分が追う立場として強い大学を倒したいこと、自主性を持って挑戦者として戦いたいという気持ちが強かったからです。本学の剣道部は男女とも明確な目標があり、基本を大切に日々努力しています。仲の良い活気のある部活で、メリハリをつけて行動しています。大学での目標は、全日本女子学生剣道優勝大会で日本一になることができたので、また、日本一の景色を見られるようにチームワークを大切に自分たちらしく明るく元気に剣道をし、日々ご指導していただいている先生方、保護者の方などたくさんの人へ感謝の気持ちを常に忘れずに取り組むことが1番の目標です。人間的にも成長できるようにこれからも努力していきます。

サッカー



これまでの成績

- 第7回全日本大学サッカー新人戦 第2位
- 第72回全日本大学サッカー選手権大会 ベスト8
- U19全日本大学選抜 第45回アンジェロ・ドッセーナ国際ユース大会 第1位
- U20全日本大学選抜 アジア大学サッカートーナメント 第1位

坂井 悠飛 さん | 島根県 立正大学浜南高校出身

私がサッカーを始めたのは小学2年生の時でした。兄は野球をしていたのですが、いとこがサッカーをしていて、興味を持ちました。

福岡大学に入学した理由は、自分のプレーの特徴をさらに伸ばし、プロサッカー選手になる夢を叶えたいと思ったからです。

福岡大学サッカー部は、毎年のようにリリーガーを輩出しており、「全国ベスト4」を掲げ、日々高い意識で練習をしています。部署制度(成長戦略部や総務部の活動)などを通して、人間力の向上にも努めており、サッカー部員が選手としてだけでなく、部署の一員としてサッカー部のために活動しています。

福岡大学はさまざまな専門競技について深く学びを得られる大学であり、他ではできないことが経験可能で、施設・環境が充実した大学だと思います。

チーム目標としては、九州リーグ優勝、全国ベスト4としっかりと結果を残していきたいです。また、個人としては、さまざまな選抜活動に選出され、リーグチームに自分のプレーをアピールできればと考えています。応援よろしくをお願いします。

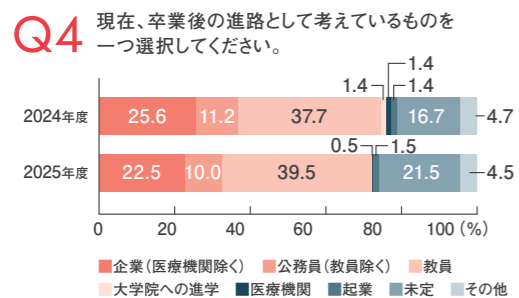
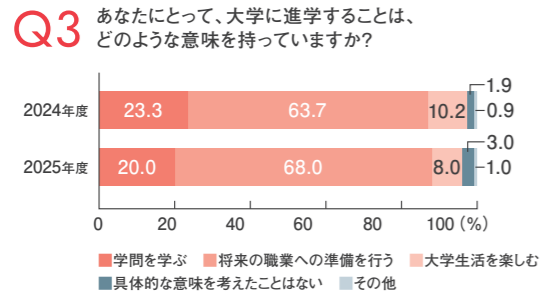
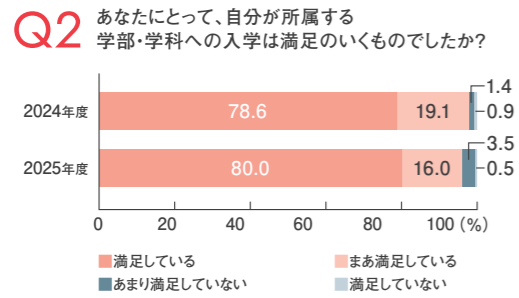
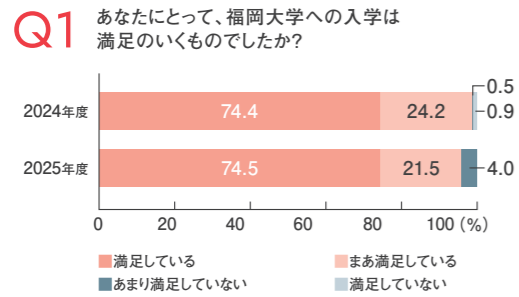
「スポーツ科学部」に入学したら？

福岡大学スポーツ科学部に入学した学生(2025年度入学)に対して下記の内容で、アンケートを行いました。(2025年新入生アンケートの結果より)

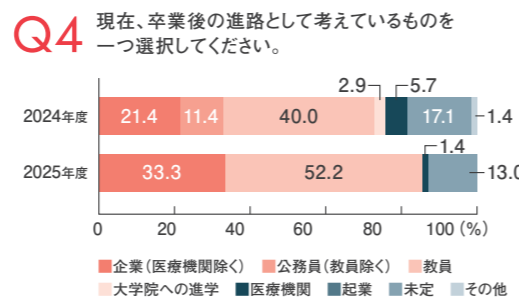
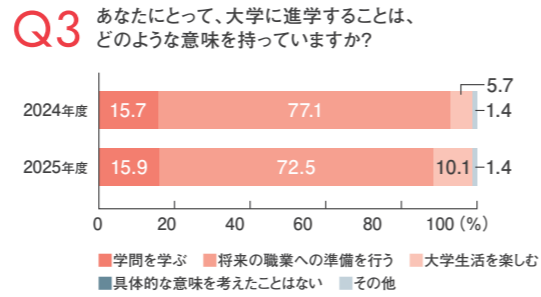
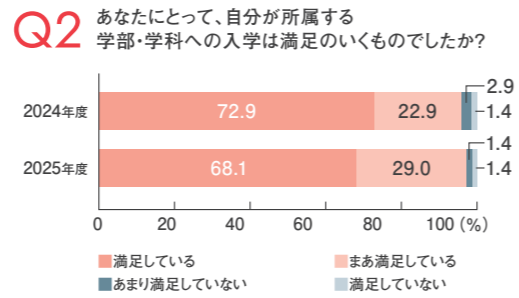
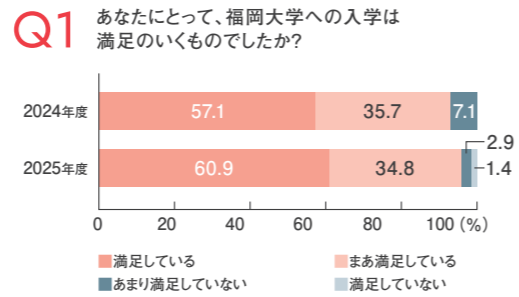


大学・学部・学科への満足度は？ とても高い	進学理由は？ 将来の準備を行う	卒業後の進路は？ 何らかのイメージを持っている	将来の職業イメージは？ 教員・一般企業・公務員
--------------------------	--------------------	----------------------------	----------------------------

スポーツ科学科



健康運動科学科



スポーツ科学を極める！～学部から大学院へ～

「スポーツを科学的に捉え、専門性を高める」ことが、将来の目標を達成する。
「スポーツ」の持つ多様性を生かして、自身も成長する。



スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象として学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に貢献し、高度なスポーツ知を拓くことを教育理念としています。

博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基盤とした科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行います。

博士課程後期では、健康増進を目的とした処方、あるいは疾病や傷害の治療・予防・再発防止を目的とした処方、また、アスリートから幼児や高齢者に至るまでを対象として体力・スポーツパフォーマンス向上を目的とした処方などに関する研究を行います。

そして、これらの専門領域において、自立して研究活動を行うことができる研究者を養成します。



■Voice ※取材の内容は2025年取材時のものです。

研究の世界と現場をつなぐ



堤 宏太郎 さん
スポーツ健康科学研究科
博士課程前期 2026年修了

私が大学院に進学した理由は、私の専門種目であるマラソンにおいて、スポーツ障害によって選手生命を絶たれてしまうアスリートや、マラソンを楽しめなくなった市民ランナー等の方に対して、研究の力で何か助けになりたいと思ったからです。

[在学中の取り組み]

私は、ランニングにおける接地パターンの違いが足部に与える影響や、シューズを履いた状態と裸足の状態で足部にどのような違いが生じるのかを解明することを目的として研究を行っています。実験やデータの解析に加え、国際学会での発表など、これまで経験したことのない活動が多く、日々新たな刺激をもらいながら取り組んでいます。また、研究で得た知識や経験を、中学校の部活動指導員やクラブチームへ還元する活動も行っています。科学的な視点からスポーツ障害を予防し、研究の世界と現場をつなぐことを目指しながら、日々の活動に励んでいます。

[後輩へのメッセージ]

研究をしたいという明確な意思や目的がある方にとって、これ以上ない設備と環境が整っていると思います。覚えるべきことややるべきことが多く、決して楽ではありませんが、それ以上に探求心を刺激される貴重な機会です。興味のある方は、ぜひ検討してみてください。

日々の学びが創る未来



橋本 紗希 さん
スポーツ健康科学研究科
博士課程前期 2025年修了

檜垣ゼミの授業で加速度計を装着し自らの日常生活をデータとして可視化したことがきっかけで、繰り返しのような毎日の生活も数値化すると傾向が表れることに魅了されました。日常の生活を科学的に捉えたいと思い、大学院進学を志望しました。

[在学中の取り組み]

在学中は運動生理学研究室に所属し、ヒトの行動パターンの普遍性から高齢者に着目して、生活行動パターンと認知機能の関連について検討しました。専攻分野だけでなく、他分野の講義を受ける機会も多く、自身の研究テーマと関連する領域の知識の幅を広げることができました。研究室の勉強会や学会発表では、学んだことを周りの人に分かりやすく伝える力を身に付けることができたと感じています。また、高齢者を対象とした体力測定や運動教室を通して、実践的な指導法や対象者に寄り添う姿勢の重要性を学びました。在学中は学内外の多くの方との出会いを通して、多角的な視点から健康づくりを支える知見を深めることができたと思います。

[後輩へのメッセージ]

スポーツ健康科学研究科は、学びたいことを存分に追究できる環境があります。明らかにしたい研究テーマに寄り添って指導して下さる先生や先輩、切磋琢磨できる仲間たちと共に大きく成長できるとても魅力的な場所です。

トップアスリート紹介



© 阪神タイガース

夢へと続く一本道を
一意専心の努力で
つかみ取る。

梅野 隆太郎 選手

阪神タイガース所属

2014年 スポーツ科学部卒業
(福岡県 福岡工業大学附属城東高校出身)

- 2013年 第39回日米大学野球選手権大会 日本代表
- 2021年 東京2020オリンピック 日本代表(金メダル)

高校卒業時点では、自分の納得のいく体ができていないため、4年間で体をつくって実績を積みたいと思っていました。そんな思いを胸に福岡大学に進学しました。福岡大学の4年間は、小さい頃から抱いてきたプロ野球選手という夢を叶えるための4年間でした。体と心を鍛える努力一色の日々でしたが、諦めずに進んできた自分を誇りに思います。

また、大学時代には、トップアスリートを目指す人ばかりの寮で暮らしていました。競技は違っても同じ志を持っている仲間と励まし合いながら、自分のペースで自由に学ばせてもらえる環境がありがたかったです。

スポーツ科学部の授業では、プロ野球選手の先輩である渡邊正和先生に教わるために「卒業研究論文」を履修しました。自分も経験したドラフト会議をテーマに卒業研究論文を作成し、プレゼンテーションで精神力も養えました。



スポーツで
必要となる学問が
実践に生きてくる!

中村 匠 選手

豊田合成ブルーファルコン所属

2019年 スポーツ科学部卒業
(福岡県 福岡魁誠高校出身)

- 2018年 世界学生選手権大会(クアアチア)3位
- 2021年 世界選手権(エジプト)出場
- 2024年 パリオリンピック 日本代表
- 2025年 世界選手権(クアアチア、デンマーク、ノルウェー)出場

私が福岡大学に進学した理由は、当時の福岡魁誠高校の恩師が福大出身の方であり、高いレベルでハンドボールができると薦めていただいたからです。入学したスポーツ科学部は、スポーツをする中で必要となる生理学、栄養学、スポーツバイオメカニクス、体力学などの身体の仕組み、動かし方、トレーニング法などを詳しく学ぶことができ、実践に生かせるという点も魅力的でした。ちなみに私は公衆衛生学の研究室で学びました。

大学時代は4年次の全日本インカレで準優勝することができました。現在は豊田合成ブルーファルコンに所属しており、2021年度日本選手権優勝、大会 MVPに選んでいただきました。また、2021年3月には、国内最高峰である日本ハンドボールリーグプレーオフで2連覇をすることができました。今日、日本代表選手として活動できているのは、福大で学んだあらゆることにつながったことと実感しています。

皆さんもこれから先辛いことがあると思いますが、必ず乗り越えられると思います。共に頑張りましょう!



© Getsuriku

競技も学びも全力で
学生日本一と
教員免許を手に。

上田 百寧 選手

株式会社ゼンリン所属

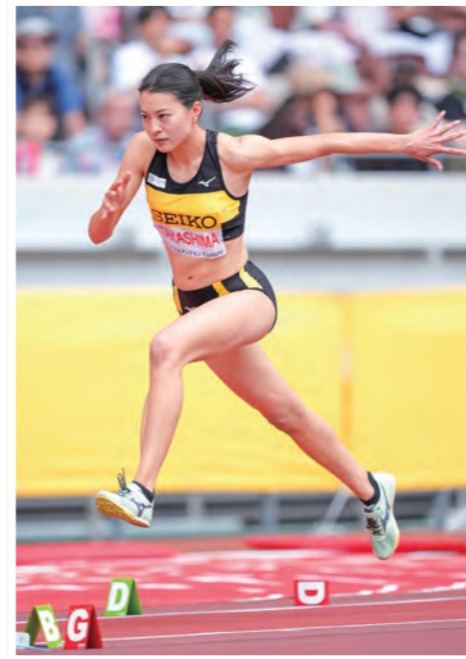
2022年 スポーツ科学部卒業
(福岡県 中村学園女子高校出身)

- 2022年 世界選手権(オレゴン)出場
- 2023年 世界選手権(ブダペスト)出場
- 2024年 パリオリンピック10位
- 2025年 世界選手権(東京)出場

私は福岡県糸島市で生まれ育ち、福岡が大好きです。中学、高校の恩師は福岡大学陸上部のOBで、福岡大学とはすごく縁があるなど感じています。福岡大学への進学を決めた理由は、高校生の時、達成できなかった日本一を大学で必ず達成すること、そして教員になりたいという目標もあったので、その両方を達成することができる環境が整っていると思ったからです。

入学してすぐに怪我をしてしまい、苦しい時期もありましたが、大学2年次には学生日本一を達成する事ができました。今でもその瞬間が1番の思い出です。もう一つの目標でもあった教員免許(中学、高校)も無事に取得する事ができました。達成できたのは部活も勉強も共に頑張る仲間や信頼できる先生方がいるから一生懸命取り組むことができたと思っていますし、福岡大学を選んで正解だったと確信しています。

現在は北九州市に本社がある株式会社ゼンリンに所属しています。「地元福岡で応援してもらいたい、活動していきたい」という気持ちで入社しました。大学を卒業してからも練習拠点は福岡大学にさせていただいているので、新しく入学してくる皆さんに会う機会もあると思います。一緒に目標に向かって頑張りましょう!



環境が人を育てる。
高みを目指して
自分を更新しよう。

高島 真織子 選手

株式会社クラフティア所属

2022年 スポーツ科学部卒業
(兵庫県 西宮市立西宮高校出身)

- 2023年 世界選手権(ブダペスト)出場
- 2025年 世界選手権(東京)出場

入学のきっかけは、高校3年生のインターハイ後に「さらに上を目指してみないか」とお声がけいただいたことです。

当時、陸上は高校までと考えていましたが、自分の可能性を見出してくださったことが何よりも嬉しく、それが一番の決め手となり本学への進学を決めました。

本学部では、スポーツに関する知識や技術の習得はもちろん、競技の垣根を越えた多角的な学びを通じて、アスリートとして、そして一人の人間としても大きく成長することができたと実感しています。

また、身近に世界の舞台で戦う選手がいたことも大きな刺激になりました。現状に満足することなく、常に高い目標を掲げて競技に打ち込むことができたのは、切磋琢磨できる環境があったからこそです。

そして何より、いつも私達を厳しくも温かく見守ってくださった教職員の方々の存在は、親を離れていた私にとって非常に大きな支えとなりました。

このように、充実した環境で過ごした4年間で、現在の競技生活につながっています。

大学入学後は、練習環境や生活の変化に戸惑うこともあると思います。焦らず、自分のペースで変化を受け入れながら、新たなスタイルを確立し、目標に向かって進み続けてください。皆さんの活躍を心から応援しております。

トップアスリートリスト

団体の部 (全国大会3位以上)

陸上競技部	柴藤凜、大林璃音、山形愛羽	第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×100mリレー	第1位
	柴藤凜、大林璃音、山形愛羽	第109回日本陸上競技選手権大会 リレー競技 女子4×100mリレー	第1位
	小笠原光咲、福岡梓音、長町碧泉、加来さくら	第109回日本陸上競技選手権大会 リレー競技 女子4×400mリレー	第3位
弓道部	中村大介	全日本学生弓道王座決定戦第73回 男子の部	第2位
準硬式野球部	馬場陸翔、波多野莉久、白水良拓、橋本雅輝、池内巧、宮崎数仙、井上太陽、秋穂智哉、大田隆二郎、戸上大樹、富永結斗、敷田涉磨	文部科学大臣杯 第77回 全日本大学準硬式野球選手権大会	第3位
ソフトテニス部	竹田葵、大川夕歌、原野湊、中原光琉、西村麻央	第79回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 女子大学対抗	第3位

個人の部 (全国大会3位以上)

陸上競技部	山形愛羽	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 女子100m	第1位
		第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子100m	第1位
	江原美月優	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400m	第2位
	小笠原光咲	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 女子400mH	第3位
	石井那奈	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 女子七種競技	第2位
	若林人生	2025日本学生陸上競技個人選手権大会 女子棒高跳	第1位
福山光	第41回U20日本陸上競技選手権大会 女子5000m	第3位	
	第43回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 第1区	第6位 (区間新記録)	
柔道部	大野萌亜	全日本選抜柔道体重別選手権大会 女子57kg級	第3位
重量挙げ部	松原尊	第71回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 61kg級	第1位
なぎなた部	内田優	第64回全日本学生なぎなた選手権大会 女子個人試合競技	第1位

個人の部 (国際試合等対象選手一覧)

柔道部	大野萌亜	FISU ワールドユニバーシティゲームズ柔道競技 女子57kg級	個人第3位 団体第1位
陸上競技部	福岡梓音	香港2025U20東アジア陸上競技選手権大会 女子400mH	第1位

スポーツ科学部Q&A

Q 競技の情報などはどこで調べられますか？

A 専用HPを開発しています。詳しい試合状況、競技情報など閲覧できるスポーツ科学部専用HPがあるので、ぜひチェックしてみてください。福岡大学公式HPの学部サイトからもリンクしています。



Q スポーツの競技力向上はどんな方法で、どこで目指せますか？

A ほとんどの学生は運動クラブに所属し、実践的トレーニングをクラブで行い、競技大会等に出場し、競技力向上を図っています。科学的知識は講義やコーチ法演習およびゼミで講義形式・演習形式(理論と実技)あるいは実験形式で学びます。したがって競技力向上は授業で得られた知識を運動クラブの実践でいかに生かすかが重要になります。

Q 大学院ではどんなことが学べますか？

A 大学院博士課程前期では、体育学、体力学、スポーツ医学、体育科教育学、コーチング学、運動健康学の6専修が設けられており、体育・スポーツ・健康運動の高度な知識・技術をもとに社会が必要とする科学的指導を実践・応用できる専門家を養成し、後期課程では、専門的な領域で自立して研究活動を行える研究者の養成を目的としています。

Q 就職・進路に対するサポート体制について詳しく教えてください。

A より良い進路・就職選択をするために、3・4年次になって初めて悩むのではなく、自らの将来に向かって計画的に大学生活を過ごすことが肝要です。スポーツ科学部では、その選択について早い段階から意識を持って取り組むよう次のような支援を行っています。

インターンシップ

8月から9月の夏季休暇中に、企業・団体等を受け入れ先としたインターンシップを実施しています。現地の実習・就業体験を通して、日頃の学修の成果を確かめながら、各種の職域、職業適性への理解を深められるように行っています。

進路ガイダンス

進学・就職に対する基本的な活動方法から、就職試験で大きなウエイトを占める面接試験対策のための「模擬面接会」や「対策講座」。各職場の本学卒業生を講師に招いて「業界説明会」などでアドバイスします。こうしたガイダンスを通じて情報の提供を含め、進路実現に向けてサポートしています。

個人面談(ヒアリング)

一人一人の進学に関するさまざまな悩みや就職活動の疑問、不安を解消し、よりスムーズにできるように、アドバイスを行っています。その他に、キャリアセンター主催の「キャリア形成支援講座」などの多彩なプログラムへの参加利用ができます。

Q 取得できる資格等について詳しく教えてください。

- A**
- ### 取得できる免許・資格について
- 中学校・高等学校保健体育教諭一種免許
 - 健康運動指導士
 - 健康運動実践指導者
 - NSCA (National Strength and Conditioning Association) 認定資格 CSCS (認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト) *認定校受験資格
 - NSCA (National Strength and Conditioning Association) 認定資格 NSCA-CPT (NSCA認定パーソナルトレーナー) *認定校受験資格
 - 日本スポーツ協会公認ハンドボールコーチ1
 - 日本スポーツ協会公認水泳コーチ1・3
 - スポーツ指導基礎資格(スポーツコーチングリーダー)
 - 競技別指導者資格 (コーチ1、コーチ2、コーチ3、コーチ4、教師、上級教師)
 - フィットネス系資格 (ジュニアスポーツ指導員、スポーツプログラマー)
 - マネジメント指導者資格 (アシスタントマネジャー、クラブマネジャー)
 - キャンプインストラクター
 - レクリエーション・インストラクター
 - 初級パラスポーツ指導員(資格申請により認定)

Q 授業の様子を教えてください。

A 本学部では、優れた運動技能やスポーツ経験を持つ学生たちが、医学・科学的な知識を「理論知」として学び、スポーツを実践する中で得た経験や感覚を体系化する「実践知」を学び、スポーツを論理的に教えらるるチカラが身に付くような教育を行っています。

